

<教育長だより 75号 杵ヶ岳朝日に映えて 令和7年12月23日>



ナナメの関係

教育長 津野庄一郎

「社会全体で子どもを育て守るには、親でも教師でもない第三者と子どもとの新しい関係＝「ナナメの関係」をつくることが大切である。学校内外で子どもが多くの大人と接する機会を増やすことが重要である」と文部科学省は言います。

本村の教育にこれを当てはめるならば、小学校の「放課後子ども教室」(せきともクラブ)と、中学校の「休日の学校部活動の地域展開」(せきかわ地域クラブ)をあげることができます。前者は毎週火曜日の放課後、旧川北小学校で地域ボランティアの支援のもと異学年の仲間で交流し、自由遊びや自学自習、創作活動をしています。四季折々のイベントを楽しんだり、村民文化祭にも出品したりしています。一方、後者は土日を中心にバスケット・バレー・卓球・柔道の運動系の活動で、地域の方が熱心に指導しています。(R8年からは吹奏楽部も) このように小中学生が地域の方との温かいふれあいの中で自分の個性やスキルを磨き、人となりを学ぶ貴重な機会になっていると感謝しています。

来春、本県中学校の教壇に立つ新潟大学学生ボランティアの須貝桃さん(高田出身)が、母校の関川小学校での活動を終えたと報告にきました。授業の合間を縫って後輩たちのために足を運んでくれました。村から羽ばたく若者の活躍が楽しみです。



<【写真】上：せきともクラブのハロウィン工作＝10月28日、下：せきかわ地域クラブ（バレー）＝11月8日>